



山梨県立あけぼの支援学校

地域支援だより No.2



令和7年9月発行



暑い日が続きますが、暦のうえではもう秋ですね。空を見上げると、秋の気配を感じさせる雲が見えるようになってきました。

さて、この時期は運動会、学習発表会、冬になればスケート・スキー教室などの行事が盛りだくさんな学校が多いのではないのでしょうか。日常の学校生活の中での支援に加え、行事における集団活動の中で、支援の必要な児童生徒について、どのように配慮していけばよいのか悩まれている先生もいらっしゃるかと思います。もし困っていること、悩んでいることがありましたら、ぜひ本校へご相談ください。



今回の地域支援だよりでは、本校で取り組んでいる“校外学習の下見の際に確認すべきポイント”や日常生活の中での支援内容、使用している用具などを紹介したいと思います。

子どもたちが、安心・安全な環境の中で「できた!」「やった!」をよりたくさん感じられるように、支援の際の一助にいただければ幸いです。

校外学習 下見のポイント



- ・車椅子の幅、高さ、奥行き の測定をしておく。
- ・リフト付きのバスの場合、バスの中(床)に車椅子を固定できる金具やベルトはあるか。
- ・リフト付きのバスの場合、バスの乗降場所にリフトを稼働できる十分なスペースがあるか。
- ・バスの乗降にかかる時間の確認
- ・バスを降りたあとの、目的地(施設)までの動線、移動時間の確認
- ・移動ルート の段差、傾斜、道幅、歩道の幅の確認(危険箇所の確認)
- ・車椅子で通行可能かどうかの確認
- ・トイレ、休憩場所の有無と場所の確認
- ・雨天時の動線(屋根があるか)や活動の検討
- ・エレベーターの場所、大きさ(入口、幅、奥行き)の測定と段差の確認
- ・泊を伴う場合、宿泊施設までの移動時間の確認
- ・部屋の戸の開閉の仕方の確認
- ・部屋の入口の広さの確認
- ・車椅子を置く場所の確保
- ・当日の他の団体の利用状況の確認
- ・食事等で使用するテーブルや椅子の大きさ(高さ)や配置の確認



自走するときに手がすべってしまい
うまく操作ができない…

ハンドリムにすべり止めを装着

車いすを自走する際に握る「ハンドリム」ですが、手がすべってしまい上手く操作できないこともあります。市販のハンドリム用のすべり止めもありますが、手軽に試してみるには、100均のスポンジやすべり止めを巻き付けるなどで代用することができます。

少しの工夫で
できることが
ふえるね♪



バランスをくずした際の転倒が心配…

車いすの後部に転倒防止の支えを設置



↑転倒防止のバーのない車いす



ふとした時にバランスをくずして…、傾斜があって…など、転倒の不安がある場合に、転倒防止の支えがあると安心です。

市販の転倒防止バーもありますが、ホームセンターで販売されているステンレス管や塩ビ管を加工したもので代用可能です。

うまくえんぴつが持てない…
書きながらプリントが押さえられない…



子どものための介助・自助支援グッズ
「Qシリーズ」がおすすめです！



筆記用具をもつためのリング、プリントがすれないようなシート等、様々なグッズがあります。

Qシリーズについて⇒

埼玉福祉会の総合販売サイト
サイフクオンラインより



教育相談等について

就学や進学に向けた教育相談、学校見学、授業体験などは、随時、個別に受け入れておりますが、各種感染症のまん延状況によっては、校内への立ち入りを制限させていただくこともあります。

これらを検討している方につきましては、早めに相談いただくことをおすすめします。

支援教材・教具の貸し出しを行っています

Qシリーズや競技用車いす、ボッチャのセットなど、本校にある教材や教具を貸し出しすることができます。「実際に見てから考えたい」「乗り方など教えてもらいながら練習したい」などの希望についても、お気軽にご相談ください。



↑ボッチャについて

一般社団法人日本ボッチャ協会HP

山梨県立あけぼの支援学校

〒407-0046

韮崎市旭町上条南割3251-1

TEL : 0551-22-6131

E-mail : shien@akebonoy.kai.ed.jp

URL : <http://www.akebonoy.kai.ed.jp>

(地域支援担当: 大原嘉代 坂本梨恵子 土橋克行)

